

1 公立高校は大学受験塾ではない

福島の高校生は「高校で大学受験対策の授業をしてくれる」と思っています。しかし、この認識は間違っています。公立学校は、教科書の内容(最難関大学入試対策の1/100以下)を教える所です。公立学校は文科省のカリキュラム的にも時間的にも実力的にも、「大学受験突破を主目的とする授業」を行うことはできません。このことは、首都圏の多くの保護者・生徒にとっては常識です。

2 大学受験と福島県立高校受験における「偏差値」の違い

偏差値の定義を知ればわかることですが、

$$(\text{現在の本当の偏差値}) = (\text{県内中三模試の偏差値}) - 25$$

です。多くの人は、現時点で行きたい大学との偏差値のギャップがあることでしょう。しかしながら福島高校の生徒のほとんどが、高校1年生時の『本当の偏差値』の大学に進学しているのが実情です。

3 福島県の進学の実際

- 県内の中学生の平均学力は、ほぼ全国最下位です。
- 『七帝大や国公立大医学部』への進学率は、全国第46位です。(第47位は沖縄県)
- 県内トップ高の三年生の95%以上は偏差値60以下です。将来困ることも知らず、^{むやみ}無闇に「本来の実力では一般入試で合格できない大学」に「推薦」で行きたがる生徒が多いです。
- 県内トップ高の生徒の90%以上は、「入学時の第一志望」に現役合格できません。最大の原因の一つが、「通塾率が異常に低いこと」です。(通塾率は10%未満)
- 通塾率が低いことの一因は、福島県の生徒の保護者の多くが、自身が子供時代に難関大学の受験を経験していない場合が多いことです。

4 推薦入学が就職に不利って本当？

昨今では 例えば福島高校から東北大学への入学者は 30 人の場合、20 人超は推薦で入学しています。年々学力は落ちており、30 年前の福島高校とは実情がかなり異なります。しかしながら、推薦入学で入学した大学生は就職活動で苦労することがあります。実際、「多くの都市銀行や商社などの就職難易度の高い企業」における面接で「一般入試か推薦入試のどちらで合格したか」と聞かれます（2024 年度時点）。『AO・推薦入試など高校の定期テストの成績で入学した学生』は『実力で競う一般入試で合格した学生』と比べて就活において不利になることが実情です。就活のときに困ることを生徒に伝えず、推薦入試で大学に進学することを生徒や保護者に薦める塾は、非人情ではないかとさえ思います。当塾では、推薦入試に頼らず一般入試で合格を目指す実力を十分につけるのが目的です。

5 映像授業での完全理解は困難

地方には公立高校入試程度の中学生相手の授業をしても、大学受験対策の授業をする実がないため、『映像授業を生徒に見せる塾』が多くあります。質問をしたくても、「質問対応の大学生アルバイト」が常駐しているわけではありません。また、『東大・東北大・国公立大(医)・早慶(理工・医)』等の難関大学向けの授業の質問対応ができる大学生は、ほぼ皆無です。なぜならば福島県には「理学部・工学部」などの理系学部を有する国公立大学が存在せず、「高校生時代にそのレベルの学習を行ってきた学生」がほとんどいないからです。

6 映像授業会社の「合格者数」は本当に信頼できる？

映像授業を提供する会社でよく見かける「合格者数」ですが、その多くは「講座を無料受講した難関国私立高校の生徒」や「高3の夏に約一週間の特別講義だけ物見遊山に参加した生徒」です。実際に、どの程度の効果があったのかを知ることは難しいのが現実です。多くの場合、『首都圏の難関国私立高校の生徒であり、かつ無料招待で入会し、自習室としてビデオブースを無料使用している生徒』で合格者数の数増しをしています。このような生徒は、

- 実際に授業を行っている受験予備校・大学受験専門塾に通っており
- (大手予備校の自習室は混雑しているため)

映像講義はほとんど見ずに、自習室だけ利用している

場合がほとんどです。

そして、「東大合格者の人数」を声高に宣伝し、予備校不毛地帯である地方都市で、資金回収する不誠実なビジネス・スキームが構築されてされているのが日本の塾業界の嘆かわしい実情です。

真面目に授業を行う予備校講師は、常に生徒の反応を見ながら、説明の仕方をその都度工夫して、生徒に理解させる講義を行います。

7 首都圏の進学高校の通塾率はほぼ 100%

つくこま
筑駒・開成・麻布・学附などの首都圏の進学校の通塾率は高1生時からほぼ100%です。これは、学校の勉強のみで大学入試を突破することがほぼ不可能であることを示しています。高校の学習量は中学の学習量とは比にならないくらい多く、高校での勉強は中学時と異なり学問としての抽象性が高まります。

地方都市で言われている「大学受験対策は高等学校だけで十分という」文言は、何を根拠に言っているのかを精査する必要があります。

8 地方の高校生はなぜ本来の学力の1ランクまたは2ランク下の大学に進学しているのか？

地方都市に住んでいると、首都圏の受験環境に比べて情報やサポートが限られ、質の高い塾に通うことができない場合が多いです。その結果、地方の高校生は、受験対策が不十分なまま、1または2ランク下の大学に進学してしまうケースが見られます。

例えば、高1の頃から塾へ通い大学受験勉強をしていれば東大へ受かる実力の生徒が理科大・上智大等に進学していたりします。他にも、

- 東北大に入る実力があるはずだが、筑波大・横国大
- 早慶に入る実力があるはずだが、明治大・中央大・法政大

などの例が散見されます。

9 大学受験勉強の優先順位

大学受験において最重要である科目は 数学・英語 であり、次に重要となってくるのは

- 理系であれば、物理・化学
- 文系であれば、日本史・世界史

です。映像授業を提供する塾では、『理系の生徒に国立大学を受けるからという理由で古文の受講を薦める』ことが多いですが、これは

- チューターの大学受験事情の不理解
- 講座数のノルマ達成のため

などであると考えられます。

物理を学習するために本来は、高校3年生で学習する数ⅢCは必須であり『学校のカリキュラム上での学習は困難を極める』ことは知っておいた方が良いでしょう。

本当に自分の志望の大学に受かりたい、将来良い企業に就職したいなどを考えているのであれば、高校1年生のときから、『自分の入りたい大学へ入るにはどうすればいいか』をよく考えることをお勧めします。

(文責：福島高校卒で東京の大学受験予備校で講師をしている現役大学生)